

事業成果

事業名	多様な連携による地域密着型サロン提供事業
事業成果	<ul style="list-style-type: none"> ・実施体制・実施過程 検討委員会で、委員から事業に関する需給バランスは執れているのかという意見から、サロン化による当事者ニーズを再把握すると共に、社会貢献活動や就労体験学習可能な新たな受け入れ先を模索した結果、社会的自立の促進をより効果的に進めることができた。また、利便性と多様性を利用した「善意の箱」の設置と緊急支援サービスの提供により、自殺、孤独死、孤立化予防対策として多彩な活動を行うことができた。 ・事業の具体的な成果等 生活支援サービス活動では、軽食の提供を月4回としていたが、糖尿病、うつ病、アルコール依存症等の当事者性を考え、軽食・茶菓提供を毎日とし、総合相談を夜間も含め、随時対応したところ就労意欲のある当事者はサロン化が寄与し、新たに4名が就労自立を果たした。また、事業の特殊性から精神的自立ができない当事者について、安否確認サービスにより現況確認をしたが、施設入居者、路上生活者も含め、予防医学や新たな福祉サービスの提供ができた。今後、居場所の提供による生活保護受給者の自立意識の向上と共に、医療扶助受給支援対策として、地方自治体の負担軽減になればと考える。 ・波及効果 茶菓・軽食提供を毎日とした結果、食材の安定確保が難しかったが、農業の就労先での無料食材の確保ができた。また、期限のある食材には工夫をし、路上生活者には手作り弁当を配布、配食支援サービス活動に発展したと共に、地域連携活動の連携先（とくしま県民活動プラザ）から共催事業の案内があり、「地域で支え合う仕組みづくりを考えるための映画（きみに読む物語）上映会及び身元不明死者公開パネル展」を企画提案、新たな事業化による社会貢献活動による就労体験や「ゆめバンク」の指定寄附によるファンドレイジングに繋がった。 ・新たなニーズ この事業を通じて、財源確保と財源の健全化を図り、総合相談ができるサロンや、支援付き就労のできる中間的就労拠点の事業化により、今後、当事者における生活環境の質の向上や生活保護受給世帯への適正化を目指して活動の拡充に努めていきたい。
成果物	(成果物) 報告書、チラシ、活動内容一覧表 (その他参考となる資料) 掲載記事、事業写真